
「多言語による高校進学ガイダンス」

共に学ぶ場となる多言語進学ガイダンス

国際学部3年

セキブンカン

2021年度の多言語進学ガイダンスは様々な方の協力をいただいて、無事に成功した。この活動は県内の外国人児童生徒として高校進学の情報を手に入れる大切の場だと思う。特に外国人児童生徒及びその保護者たちは日本語があまりできない方も少なくない。外国人児童生徒に必要な進学情報をどこから手に入れるかが分からないし、手に入れても日本語が分からないためうまく理解できないこともある。その問題を解決するために、多言語進学ガイダンスでは外国人に向けるやさしい日本語だけではなく、ポルトガル語・スペイン語・英語・フィリピン語・中国語・ベトナム語、タイ語で高校受験の制度を説明し、生徒さん一人一人の質問を丁寧に答えるように行った。

ガイダンスを進める中で感じたのはやはり高校進学の方法が非常に複雑で、例えば、公立高校の一般選抜、特色選抜、A特別選抜検査、B特別措置による学力検査、私立の推薦入試、単願併願制度、定時制高校など外国人に十分に理解してもらうために母語で説明するしかないものが沢山ある。多言語進学ガイダンスのおかげで、高校進学に悩まされる外国人児童生徒が自分の状況に相応しい進学方法を選んで、効率的に高校受験を準備できると思う。また、学生である私としては、外国人児童生徒が進学に関する悩みや、県内の進学制度を勉強できた。だから、生徒と保護者のみならず、支援者及び外国人児童生徒問題に興味を持っている方に対して、こ

のガイダンスは非常に良い学びが出来る場であると考えている。

実際コロナウイルス感染拡大の状況で進学ガイダンスを開催するのが決して容易ではない。今回は前年度と同じくオンラインツール ZOOM を活用してガイダンスを進行した。ただし、今回は前回のように違う国ごとで ZOOM の部屋を開くのではなく、一つの ZOOM の部屋でブレイクアウトルーム機能を活用して、生徒、保護者と支援者を該当するルームに移動させ、必要に応じてセンターから各ルームのメンバーを移動させることができるようになった。また、ガイダンス当日で Wi-Fi を繋げない問題もあって、先生と学生の協力で開催直前に解決したが、今後ガイダンスを準備する際にネット環境をよく確認する必要があると言える。生徒及び保護者が ZOOM に入る際に、名前の変更やブレイクアウトルームの入り方など必要な情報を事前に画面で共有すれば、ガイダンスをもっと円滑に進めると思う。

元外国人児童生徒である私は、この多言語進学ガイダンスは進学に悩まされる生徒たちにとって非常に貴重な情報収集の機会であることを強く感じている。自分が日本の中学校に通っていた時にはこのようなガイダンスがなかったため進学情報の収集やそれを理解するのが非常に困難であった。今後も多言語進学ガイダンスをぜひやり続けて、高校進学を目指す外国人児童生徒を助けていただければと思う。